10・21天皇・狭山闘争の大爆発を！

そしての斗う労働者、学生、市民の皆さん！

共産主義革命戦線は今秋期斗争の方針を明らかにし、ともに斗わんことを訴える。

「天皇制・天皇制イデオロギー攻撃粉砕　狭山上告審斗争の完全勝利かちとれ」

四・三〇／三〇民族解放―社会主義革命戦争の勝利と前進によって切り開かれた七〇年代後期国際階級斗争の急速な発展は、斗う労働者人民にとって一歩の後退をも許されないものとなっている。

日米両帝国主義は、八／一八「板門店事件」の画策によって、朝鮮侵略反革命戦争体制を〝再強化し、朝鮮人民の〝南北自主統一〟をかけた勇敢な斗いを圧殺し、巻き返しを図ろうとしている。従って朝鮮半島における緊迫しているこの状勢の一切は、帝国主義による反革命と、これに抗し斗う朝鮮人民を先頭とするプロレタリアートの攻防にある。

この中で日本帝国主義は朝鮮侵略を支える国内体制の打ち固めに奔走し、その攻撃は、天皇制・天皇制イデオロギー攻撃を決定的環として推し進めている。言うまでもなく十一／一〇天皇在位五〇年式典であり、昨年七月皇太子訪沖、九月天皇訪米にひきつづく攻撃の最頂点として存在している。

更に、狭山斗争はこれまでにない最も重要な局面に入っている。最高裁―藤林・吉田体制は、上告棄却を策動しており、部落解放同盟と三〇〇万部落大衆、労働者人民の必死の斗いを圧殺せんとしている。無実の部落民　石川一雄氏の生死を賭したこの斗いに、我々は今こそ全力決起しなければならない。我が革命戦線（CRF）は、今秋期の斗いを更に推し進めるべく準備し、陣型を構築しつつある。

天皇在位五〇年祭を粉砕せよ！

「天皇在位五〇年式典」は、帝国主義の戦後支配体制崩壊の中で権力内部の重点として画策されるとともに、日帝の朝鮮侵略に向けた宣言としてある事を見抜かなければならない。この式典は、革新勢力をも巻きこんで、国民の側からお祝いの行事が盛りあがるように……〝首相三木〟と国民的翼賛体制をとって強行せんとしている。すでに八月には「天皇五〇年祭特別警備対策本部」を設置し〝天皇防衛〟を明確にうちだした破防法的大弾圧体制がしかれつつある。これらの天皇・天皇制イデオロギーこそは、プロレタリアート人民にかけられる極悪な差別分断・抑圧支配攻撃そのものである。従って日本プロの総力戦として斗い抜かねばならない。もろ手をあげて迎合する社・共はもとより、「儀式」であるとか、「天皇制批判はアナクロニズムだ」といって逃亡する革マル、四トロをはねのけ斗い抜かねばならない。

一方、狭山斗争の全人民的大爆発に恐怖する日帝―最高裁　藤林、吉田は、石川一雄氏の獄死を狙う上告棄却策動によってのりきらんとしているしかもこの攻撃は、日帝の侵略反革命としっかりと結びついた差別排外主義、部落差別の強化拡大としてあるのだ。我々は、あの憎むべき10／31寺尾判決の二周年をひかえ、全人民の決起をかちとらねばならない。

「斗う朝鮮人民との階級的連帯をもって　米・日・「韓」反革命臨戦体制を粉砕せよ」

斗いに注目する全ての皆さん！

我々は、日帝の朝鮮侵略を軍事的に支える米・日・「韓」反革命臨戦体制との斗いを朴軍事独裁政権の白色テロに抗し斗う南朝鮮人民との国際主義的階級的連帯として斗わねばならない。

と同時に在日朝鮮人・韓国人に対する差別・同化攻撃の頂点としてある〝入管法―入管体制〟に対する斗いを帝国主義本国内プロレタリアートの階級的責務の内実を賭したものとしてかちとらねばならない。

全ての皆さん！　ともに斗わん！

10／21　中央闘争　午后六時　檜町公園　主催　侵略反革命阻止全国政治共闘

10／31　狭山最高裁決戦　於明治公園　主催　部落解放同盟

天皇在位五〇年式典粉砕！　狭山最高裁決戦勝利！

共産主義革命戦線　連絡先（362）3679

游撃

毎月一回五日発行

マルクス・レーニン主義に貫かれた革命的労働者学生の鋭利な政治的武器！　革命党と階級・人民の直接的紐帯！　帝国主義心臓部へ向けた総蜂起を組織する宣伝・煽動の指針！　共産主義者同盟政治機関紙『游撃』を読もう！

年間購読料一五〇〇円　定価一部一〇〇円